

R3年度 目標 ～学び合いの授業で深い学びを追究する～

つきたい力

- ・言葉の感覚を養い、学び合いで考えが広がる、深めることができる。
- ・話し合いを通して、学びの成果を実感することができる。

○取り組み

- ・「小金色の深い学び」（児童同士でつながる学び合いの授業）の確立。
- ・話し合い活動の充実と学びの成果を実感できるふり返りをめざす

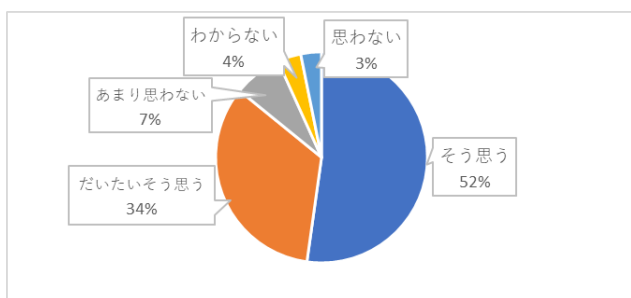
アンケートの実施・結果から

○「話し合い」「ふり返し」に対する児童の意識調査を行いました。下記の内容で各学年にアンケートを行い、児童の意識と評価を取りました。

話し合い活動

- ・話し合いの授業は楽しい
- ・伝え合うことで、新しい気づきがある。

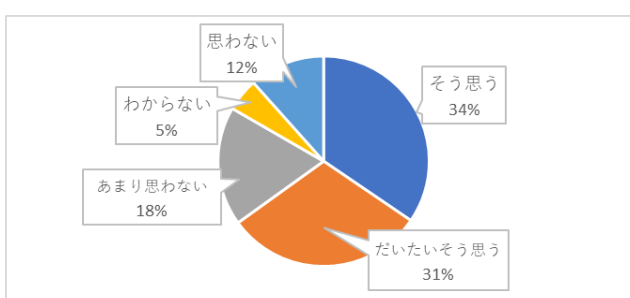
話し合の授業は楽しい



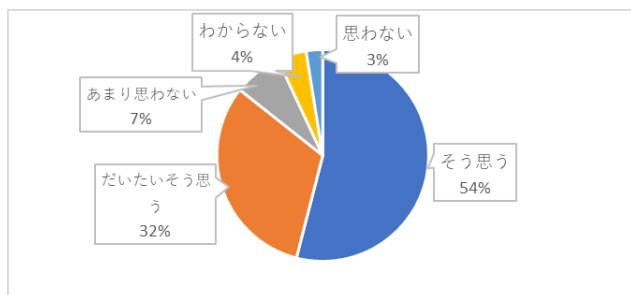
ふり返し

- ・ふり返しを書くことは、楽しい
- ・ふり返しを書くことで、自分の考えが広がる

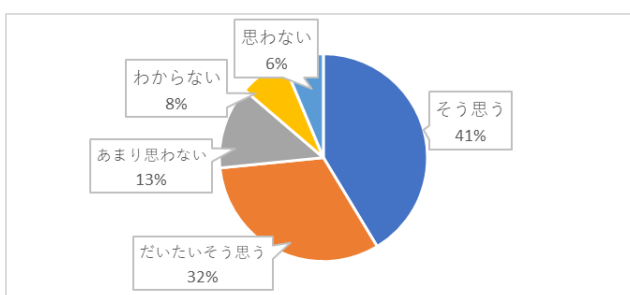
ふり返しを書くことは楽しい



伝え合うことで新しい気づきがある



ふり返しを書くことで考えが広がる



アンケート結果から

○「話し合い」「ふり返し」に対する児童の意識調査を行った。

- ・話し合うこと、伝え合うことに対して、意欲的な児童が多く見られ、授業に根付いてきたことがわかる。
- ・話し合いを通して、自分の考えが広がると考える児童が多く、他者との対話で考えを更新したり、新たな気づき、疑問がうまれたり学習活動になっている。
- ・ふり返しを書くことで自分の学びの整理につながっている児童も多いと考えられる。

●課題として

- ・ふり返しを書くこと（文章にまとめる）にやや抵抗感が見られる。
- ・児童自身の話し合い・ふり返しに対する意識や評価とそれぞれの内容が比例していないことが感じられる。

成果

話し合い活動

- ・リアクションが見られるようになってきた。
- ・ペアでの話し合いを頻繁に行うことで話す・聞く力がついた。(取り組む継続が力になる)
- ・めあてを意識して、話し合う児童が見られるようになってきた。(焦点化された話し合い)
- ・伝え合うことが楽しいと思える児童が多い。(アンケートより)
- ・他者の発言とのつながりを考えて発言できるようになってきた。
- ・自分と違う意見を受け入れることの大切さに気づく児童が出てきた。
- ・ペア・グループでの話し合いの充実が感じられた。

ふり返り

- ・本時の授業の板書からふり返りを書く習慣が身に付いた。
 - ・他者の意見から、自分の考えを広げられている意見を書くことができていく。
 - ・ふり返りだけでなく、次の学習につなげる・活かすふり返りも見られるようになってきた。
 - ・自分の考えと他者との意見と比較し、共通点・相違点をまとめることができた。
 - ・ふり返りを書くことで、自分の考えが整理されること・考えが広がる・深まることが児童の実感として、表れてきた。
 - ・児童自身が「ふり返り」を意識することで、学習活動の質が上がった。(聞く・メモ・要点をまとめる)
 - ・ゴールが「ふり返り」なので、聞く・考えるをより大事にする児童が増えた。
- 学び合いの質が高まった。

課題

話し合い活動

- ・ペア・グループでの話し合いが全体に上手くつながらない。
- ・意見交流で終わってしまう。(ペア・グループによって)
- ・めあてに沿った質問(学びが広がる・深まる質問)ではなく、聞きたい質問が多い。(めあてを意識していない)
- ・全体での話し合いで活発に意見が出ない。(グループとの差)
- ・質問の質を上げること(タイミング・必要性・意図)
- ・語彙だけでなく、言葉を選択する力も必要。→話し合い活動に厚みがない。

ふり返り

- ・考えを更新できない児童への手立て。(他者との意見と比較はできるが、関連づけて考えることが×)
- ・キーワードの提示の仕方。(みんな同じようなふり返りになってしまう。)
- ・書かせたいふり返り=めあて・発問 であるので、その検証が弱かった。
- ・ふり返りに対する児童の自己評価と教師の求めているふり返りに差がある。(アンケートより)
- ・自分の考えの変容を詳しく書く力を伸ばすこと(めあてを意識させること)

次年度にむけて

○継続して、行っていくことが大切。(話す・聞く・書く力をさら伸ばす)

「学び合い活動」・「ふり返し」の質の向上につなげていく。

○「小金色の深い学び」を意識した授業づくりをさらに充実させる

ふり返し→話し合い→カタチにする→発問→めあて 逆向き設計の授業づくりをめざす

○ふり返りの評価と見取り

評価規準を教師でもっておくことが必要



・授業の最後に、もう一度立ち止まって考え、自分の言葉で表現できる児童を育てたい

・一人ひとりが自分の学びの成果を実感できる学習活動を追究していきたい

・目には見えにい学力を子どもたちにわかるように示し、児童と一緒に評価し、育成できないか

次年度主題設定へ